

ツリガネニンジン

Adenophora triphylla var. *japonica*

キキョウ科



ツリガネニンジン

名前の由来

花の形を釣鐘に、人参は白く太い根を朝鮮人参にたとえて名付けられた。山菜として扱う際にはトトキという名でもよばれる。
漢字名：釣鐘人参

形態的特徴

高さ50~100cmで直立する。茎は円柱形で、切ると白い乳液が出る。葉は長楕円形で縁には粗い鋸歯があり、4~5枚が数段になって輪生する。花は青紫~淡青紫色で鐘形、茎の上部に数個ずつが数段に輪生する。



ツリガネニンジンの花。
茎に輪になってつく（輪生）



ツリガネニンジンの子葉。
茎に4~5枚が輪になってつく（輪生）



ツリガネニンジンの子葉

類似種と見分け方

モイワシャジン。
モイワシャジンの葉と花は互生（茎の同じ場所から出ずに、茎に対して互い違いにつく）し、ツリガネニンジンのように輪生することはない。

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期					■							

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（葦原・樹林）
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

海岸から山地の草原や湿地、カシワ林内に生育する。

分布：国外分布は、南千島、樺太、朝鮮、中国。

国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、海岸から山地の草原や湿地、カシワ林内で見られる。

生活史

開花時期：7～9月中旬。

開花までの年数：不明。

寿命：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。

興味深い話

■根が朝鮮人参によく似ているため、朝鮮人参の偽ものにされたこともある。

■根には薬効があり、乾燥させて煎じたものに、鎮咳、去痰作用があるという。

■昔からうまい山菜の代表とされており、若芽や根が食べられる。若芽はゆでておひたしやあえもの、生のままてんぷらなどにし、茎はきんぴらや油炒め、漬物などにするとおいしい。

■十勝地方（北海道各地）のアイヌ語で「ムケカシ」という。

■アイヌ語名ムケカシの意味は、「ムク・エカシ＝バアソブ・おじいさん」。キキョウ科の草であるバアソブ（＝ムク）の根より大きな根を持つためこう呼んだという。アイヌの人たちはこの根を焼いたり煮たりして食べたが、味はバアソブに比べて劣るという。また、産後の血の道にも薬効があるという。



群生するツリガネニンジン



ツリガネニンジン



ツリガネニンジン。若芽は山菜として食される



ツリガネニンジン

配慮事項

生育している環境全体が重要である。

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅲ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981

「北海道薬草図鑑 野生編」山岸喬 北海道新聞社 1992

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995

「アイヌ民族博物館伝承記録 山川弘の伝承」（財）アイヌ民族博物館（編集・発行）1994

「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 植物編・動物編」知里真志保、平凡社、1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類
ワシ・タカ